

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録, ラオスで開催されたWorld IP Dayに招待されて
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 115, No. 7, pp. 22-23
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 115, No. 7, pp. 22-23
発行日 / Pub. date	2018, 7



知財見聞録

ラオスで開催されたWorld IP Dayに招待されて

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

2018年4月21日から5月1日までラオス人民民主共和国で開催されたWorld IP Day “Intellectual Property Fair 2018”（以下、IPフェア）に招かれ、セミナーで講演するとともに一連のイベントに参加してきた。今号では、World IP Dayを取り上げてみよう。

World IP Day

World IP Day（World Intellectual Property Day）には、知的財産権（特許、商標、工業デザイン、著作権等）がイノベーションと創造性の促進に果たす役割について世界の人々の理解を深めるため、さまざまな催しが行われる。これはWIPOの加盟国が、「毎年4月26日をWorld IP Day」として2000年に指定したもので、この日には「世界知的所有権機関設立条約」が1970年4月26日に発効したことに由来している。

2001年以降、WIPOは時代の要請を受け、毎年テーマを設定してWorld IP Dayのイベント開催を呼び掛けてきた。本年は“Powering change: Women in innovation and creativity”とのコンセプトの下、世界の変化を推進し共通の未来を形づくっている女性の輝き、独創性、好奇心、勇気を称賛し、未来に向けたさらなるイノベーションを求めている。

このWorld IP Dayは、2000年に指定されたばかりであり、それ以前から

毎年「発明の日」に産業財産権制度の普及・啓発を図ることを目的として、各種イベントを開催してきたわが国においては、なじみが薄いかもしれない。しかし、昨今では多くの国でWorld IP Dayの関連行事が開催され、大変なごわいを見せている。

わが国における記念日「発明の日」

わが国の「発明の日」は1954年に通商産業省（現経済産業省）の省議決定によって制定された記念日であり、毎年4月18日を指定している（偶然であるが、筆者が生まれた1954年に第1回の発明の日が施行）。日にちについては、現在の特許法に相当する「専売特許条例」が、1885年4月18日に公布されたことに由来する。

2000年になって、WIPOが4月26日をWorld IP Dayに定めたが、日本では同じ4月に既に発明の日が定着していたため、4月18日を記念日として継続してきている。

ラオスのWorld IP Day

ラオスの科学技術省知的財産権局は、World IP Dayに合わせて2018年4月21日から5月1日にIPフェアを開催した。期間中は展示会、IPセミナー、ビジネスマッチング、カウンセリング、IP登録サービス、各種エンターテインメント等、国を挙げてさまざま

なイベントが華やかに行われた。このIPフェアでは、主要な業界関係者、ステークホルダー、政策立案者が知識と経験を共有することにより、広くラオス国民を対象とする知的財産権の役割に係る普及・啓発活動をリードした。

23日にはオープニングセレモニーが開催されたが、そこに首相自ら参列して、展示ブースを一つずつ回り、激励の言葉を投げかけていたのが印象深い。セレモニーではラオス婦人連盟会長Inlavanh Keobounphanh氏および科学技術省大臣Boviengkham Vongdara氏による講演が行われた。

続いて24日、25日の両日にわたって、筆者を含め各界から講演者が集まり、多くの聴衆を招き盛大なセミナーが開催された。

祝賀マラソンへの招待

26日は、科学技術省および婦人連盟主催のミニマラソンに招待され、午



講演する筆者

前 4 時30分からのイベントに参加してきた。早朝から、科学技術省大臣、WIPO代表者、ラオス人民革命党中央委員の参列者を迎え、ビエンチャン市への入り口に当たる凱旋門パトゥーサイ広場において、ラオス国民に対して知的財産権の重要性に関する熱いメッセージが送られた。

ただし早朝のミニマラソンは、同日に知的財産権局とのミーティングを控えていた筆者に、とてもつらい一日をもたらすこととなってしまった……。

アセアンのみなぎるエネルギー

今回は、ラオス知的財産権局の局長から招待を受けてラオスのWorld IP Day関連行事へ参加したが、これに限らず、他の場面でも筆者はアセアンのプロジェクトへの参加を通じて、この地域のみなぎるエネルギーと急速な発展の足音を感じる。

アセアンのメンバー 10カ国は、歴史、文化、政治、経済、教育、生活において実にさまざまであり、発展レベルにも大きなギャップが存在している

のが現実である。しかしながら、10カ国は一丸となって協力関係の構築に努めており、共同体のさらなる強化が期待される。また、海外からは多くの支援を継続して受けるとともに、その一方で自らの革新にも精力的に取り組んでいる。

わが国の取るべきスタンスも、これまでの支援を中心とした発想ではなく、アジア地域で協働していくパートナーとしての関係構築に進展させる時期がきているとの確かな感触を得た。



オープニングセレモニーに参加した首相、科学技術省大臣ら



セミナーでの記念撮影



早朝のミニマラソン会場



知的財産権局のスタッフ